

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究の成果の発信								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長	立道恵子				
実績・成果	<p>定期刊行物（研究誌『MUSEUM』・紀要・図版目録・修理報告書・法隆寺献納宝物調査概報・研究図録）6件、特別展図録・特集陳列印刷物（特別展図録『染付一藍が彩るアジアの器』・『趙之謙とその時代～趙之謙生誕百八十年記念展』等）10件、特集陳列リーフレット（古代ガラスの発達「吹きガラス」への道等）3件、その他（『東洋美術 100 選』英語版・中国語版）2件を刊行した。これらの出版物により、国内外に広く当館の収蔵品に関する調査研究の成果を発信することができた。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>『MUSEUM』620号は、平成20年度特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」に際し、同寺のご許可をいただいて行なった撮影・調査の詳細な報告である。今回取り上げられている作品の中には、詳細なデータが初めて公表されたものもあり、斯界の研究に寄与するところが大きい。</li> <li>150年史編纂プロジェクトの一環として『MUSEUM』に掲載する館史研究は、今年度は1本の論文を掲載した。</li> <li>『東洋美術 100 選』英語版・中国語版は、海外からの観覧者に対応するものである。</li> <li>『図版目録近代彫刻篇』は、当館の近代彫刻のみならず模造・模刻、海外からの寄贈品などを含み初期博物館の収集活動という観点からも注目される。また補遺として『日本彫刻篇』（1999年）以降に収蔵された彫刻列品を掲載した。</li> <li>特別展『染付』は自主企画展のため、図録の刊行を当館が行なった。この分野では最新の研究の成果を分かりやすく表現したもので、観覧者の9.7%が図録を購入した。</li> <li>特集陳列の図録のうち『皇室と東京皇室博物館』『東京国立博物館所蔵正倉院の織物』は、同時期開催の「皇室の名宝」に関連したものである。特別展に関連した特集陳列を本館で行なうことで当館の平常展の活性化を目指すとともに、発行する図録は参考図版も多く取り入れ、資料的価値を高めた。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	定期刊行物	6件	6件	A		5	5	6	6
	特別展図録・特集陳列印刷物	10件	8件	A		6	6	11	10
	その他	2件	3件	B		-	1	2	2
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会にかかわる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



特集陳列「皇室と東京皇室博物館」  
図録

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化
-----	---------------------------------

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究の成果の発信								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要「学叢」第31号を刊行</li> <li>・社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「妙心寺」を開催し、図録を刊行した</li> <li>・社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「日蓮と法華の名宝」を開催し、図録を刊行した</li> <li>・サンクトペテルブルクにおける調査を盛り込んで特別展覧会「シルクロード 文字を辿って」を開催し、図録を刊行した</li> <li>・ウィーンにおける調査成果を盛り込んで特別展覧会「THE ハプスブルク」を開催し、図録を刊行した</li> <li>・仏教美術に関するシンポジウム「予言と調伏のかたち」を開催(10/23)</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『学叢』第31号で、論文4本、調査報告2本、修理報告1本を発表した</li> <li>・妙心寺の本坊と山内塔頭を網羅的に調査し、多数の新出作品が発見され、展覧会での公開、図録での調査成果の公表がなされた。</li> <li>・日蓮法華宗京都十六本山を中心とする社寺調査により、新出作品または所在不明だった作品が多数発見され、展覧会での公開、図録での調査成果の公表がなされた。</li> <li>・仏教美術に関するシンポジウム「予言と調伏のかたち」を開催し、47人が参加し、活発な討論が行われた。また、本シンポジウムの報告書の刊行準備をすすめている。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



『学叢』第31号

中項目 3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究の成果の発信								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長	稲本泰生				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『国宝 鑑真和上展』(特別展図録)、『聖地寧波ー日本仏教 1300 年の源流』(特別展図録)、『第 61 回正倉院展』(特別展図録)、『The 61<sup>th</sup> Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)、『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)、以上 5 冊の展覧会目録を刊行した(以上は全て作品解説付き、展覧会担当者の総論や各論等を掲載)。</li> <li>・上掲の三つの特別展会期中に、「鑑真和上・唐招提寺フォーラム 2009」(5 月 2 日、神戸新聞松方ホール、参加者数 385 名)、正倉院学術シンポジウム「皇室と正倉院宝物」(10 月 31 日、奈良県新公会堂、参加者数 184 名)を開催した。</li> <li>・読売新聞「鹿園観照ー奈良国立博物館で見る名宝」及び産経新聞に「祈りの美」を連載し、展示作品について定期的な紹介を行った。また特別展覧会開催期間中にも読売新聞・朝日新聞紙上で出陳品紹介の連載を行った。</li> <li>・前年度に引き続き、ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、また文化財保存修理所で修理した文化財を、入場無料ゾーンを利用し写真パネル等で展示した。</li> <li>・研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、同誌及び各種の学術誌において、研究員各自の収蔵品等に関する調査研究成果を発表した。</li> <li>・前年度に引き続き、当館紀要「鹿園雑集」12 号(平成 22 年 3 月刊行)に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧(平成 20 年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理した。</li> </ul>								
補足事項	<p>① 特別展・特別陳列等の開催に伴って展覧会目録等を刊行し、作品解説を付すにとどまらず、展覧会の企画・開催によって得た最新の調査研究の成果を発表することによって、充実した内容であるとの評価を多数得た。</p> <p>② 三回の特別展の会期中、それぞれの内容に応じた学術シンポジウム・フォーラムを開催した。いずれも第一線で活躍する研究者を招聘し、知的刺激に満ちた研究発表・討論を催すことができた。</p> <p>③ 新聞紙上で展示品・所蔵品についての解説や研究成果の発表を行い、当館の活動を広く一般にアピールできた。</p>			 <p>正倉院学術シンポジウム</p>					
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	展覧会図録刊行	5 冊							
	シンポジウム開催	3 回							
	研究発表・講演	35 回							
	研究論文等	22 本							
	「たより」刊行	4 回							
	修理資料整理	29 件							
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目		3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与											
事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究の成果の発信												
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	環境保全室長	今津節生	保存修復室長	藤田励夫	主任研究員	鳥越俊行	文化交流展室長	河野一隆	主任主事	久保田資子
実績・成果	<p>①CT スキャン調査研究成果の報告 研究発表（当館紀要および関連学会）、講演、テレビ番組 『東風西声』第4号（当館紀要） 文化財保存修復学会大会第31回大会 6月13・14日 日本文化財科学会大会第26回大会 7月11日・12日 東アジア文化遺産保存学会 10月16日 中国考古学会 10月31日</p> <p>②ハノイ・ベトナムフェア関連イベント「ベトナム文化講演会」 ベトナム歴史博物館及び国内からベトナムに関する研究者を招聘し、ベトナム陶磁、ドンソン時代の青銅器、世界遺産ホイアン、九博所蔵文書とベトナム史に関する講演会を開催。</p> <p>③トピック展示「進化する博物館Ⅱ」平成22年2月9日～3月28日</p> <p>④トピック展示「巨大掛軸をめぐる文化交流」の開催と図録刊行。 展覧会は平成22年2月21日から3月28日。</p> <p>⑤研究紀要『東風西声』第5号を刊行（3月発行）</p>												
補足事項	<p>①当館紀要および、国際学会を含む4つの学会で研究発表を行い、社会への情報発信を行った。</p> <p>②この文化講演会の開催が、今後相互交流を検討しているベトナム歴史博物館との人脈の形成の第一歩となった。</p> <p>③みる・きく・ふれる、中国古代青銅器へのいざないをテーマとし、デジタル技術で作製した複製品に触れながら本物の文化財を観察する展示で、一般の方々への情報発信を行った。</p> <p>④文化財修理や日韓文化比較研究について、一般の方々へ情報発信することができた。</p>												
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21				
	文化講演会 参加者	134人				—	—	—	134				
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)												
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。												
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調										



文化講演会の様子



進化する博物館



巨大掛け軸

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
担当者	担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	総務企画課長 藤本慎也					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化庁と国立文化財機構の共催事業として「アジア博物館研究集会」を開催し、アジアの伝統文化と世界への発信をテーマに、10カ国・12名によるスピーチと、5カ国・6名によるパネルディスカッションを行った。</li> <li>自国の伝統文化をどのように保護し、次世代へ継承していくのか、アジア伝統文化をどのように世界に発信するのかについて、相互に情報共有し、またその重要性を再確認する場となった。</li> </ul>								
補足事項	<p>実施日 平成 21 年 10 月 30 日(金)、31 日(土)</p> <p>主催 文化庁・国立文化財機構</p> <p>会場 東京国立博物館平成館大講堂 (第 1 部、第 2 部) 九州国立博物館ミュージアムホール (第 3 部、第 4 部)</p> <p>出席者 東京会場 201 名、九州会場 118 名 計 319 名 うち、海外参加者 17 カ国・地域、27 館、40 名</p> <p>&lt;スケジュール&gt;</p> <p>基調講演 「国の文化遺産保護政策と国立博物館の果たす役割」(東京国立博物館)</p> <p>スピーカー1 「グローバル化の時代に韓国文化を広める：韓国文化遺産の海外展覧会と海外博物館での韓国ギャラリー運営の支援」(韓国国立中央博物館)</p> <p>スピーカー2 「国際化へ向けてー中国国家博物館の展望」(中国国家博物館)</p> <p>スピーカー3 「カンボジアの文化遺産と現代への継承」(カンボジア国立博物館)</p> <p>スピーカー4 「ネパールの文化遺産：保護と公開」(ネパール国立博物館)</p> <p>スピーカー5 「文化財情報活用の新たな試み：ミュージアムシアタープロジェクト」(東京国立博物館／凸版印刷株式会社)</p> <p>スピーカー6 「ベトナムにおける伝統文化教育」(国立ベトナム歴史博物館)</p> <p>スピーカー7 「若い世代での文化促進におけるインドネシア国立博物館の役割」(インドネシア国立博物館)</p> <p>スピーカー8 「モンゴル国立博物館の伝統文化普及」(モンゴル国立博物館)</p> <p>スピーカー9 「魅力ある展示へ アジア交流展示とアジアの伝統の発信」(九州国立博物館)</p> <p>スピーカー10 「来館者と関わり合うこと：アジア文明博物館の経験」(シンガポール・アジア文明博物館)</p> <p>スピーカー11 「東洋と西洋の間で：トルコにおける文化交流展示」(トルコ・トプカプ宮殿博物館)</p> <p>パネルディスカッション 「多様な価値観とアイデンティティーアジア間での交流、そして世界へ」</p>				<p>アジア博物館研究集会 (東京会場)</p> <p>アジア博物館研究集会 (九州会場)</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	—	—	—			—	—	—	—
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 (1/2)													
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長 鬼頭智美										
実績・成果	<p>海外より計26名の研究者を招へいし、当館研究員延べ16名を海外に派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。また、日中韓国立博物館長会議、アジア国立博物館協会理事会・定期大会およびアジア博物館研究集会の主催館として、日中韓三館の協力体制を確認するとともに、アジアの国立博物館間における連携を深めた。海外参加者数：17ヶ国40名。</p> <p>さらに、韓国より1名、スコットランドより1名研修生を受け入れ、博物館の運営・活動について、当館のノウハウを学んでいただく機会を提供した。</p>													
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米、中国、韓国、南東アジア、南アジアより26名の研究者を招へい。また当館研究員延べ16名を欧州、北米、中国、韓国、スリランカへ派遣した。これらの交流活動により、欧米およびアジア主要館との連携を強化するとともに当館収蔵品とその保存・活用（教育普及）についての意見交換を行い、さまざまな新知見を得た。</li> <li>・海外展として、アメリカ・パウワーズ博物館で開催した収蔵品展「サムライの美術：東京国立博物館精選展」は、多方面から高い評価を得た。来年度以降も、アメリカのヒューストン美術館に新設される日本室への貸与協力のほか、上海万博記念展やトルコにて収蔵品展を開催すべく準備を進めている。</li> <li>・欧米の主要館が構成する国際展覧会オーガナイザー会議（IEO）に運営委員会メンバーとして継続参加、欧米各館に対して、日本の博物館美術館の近況紹介および経費削減に向けての努力などについて情報交換を行い、欧米主要館とのネットワーク強化につとめた。</li> </ul>				 <p style="text-align: center;">日中韓国立博物館長会議（21年10月）</p>					 <p style="text-align: center;">パウワーズ博物館「サムライの美術」展</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21					
	海外研究者の招聘	26名	6名	S	年 変 化	9	10	15	26					
	海外への研究者派遣	16名	6名	S		14	22	25	16					
	海外研修生の受入	2名	2名	A		2	2	4	2					
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)													
中期計画 記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。													
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調									

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 (2/2)								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 浅見龍介					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際シンポジウムの開催 「伝統文化を伝えるために博物館ができること」というテーマで1月24日に開催した。伝統文化はどの国でも人々にとって縁遠いものになりつつあるが、国の特色を示すものとして、保護、継承が望まれる。伝統的な美術工芸作品を所蔵、展示する博物館は、そのために努力しているが、観覧者と作品の間に横たわる溝を埋めるのは容易でない。有効な方法を、事例報告、パネルディスカッション、ポスターセッションによって探ろうと企図したものである。</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウムは2部構成で行なった。第1部は当館の事例報告。第2部は、他館、他国の報告である。 招聘した研究者は、山本勉（清泉女子大学）、大野康男（千葉県立房総のむら）、ジュリエット・フェリッチ（ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館）、デヴィッド・アーノルド（オーストラリア国立博物館）、カレン・チン（シンガポール国立アジア文明博物館）。 当館の発表者は、鈴木みどり、今井敦。</li> <li>ポスターセッション参加館は18館。</li> </ul>								
	 <p>国際シンポジウム パネルディスカッション 実施風景</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	国際シンポジウム参加者	170人	—	—		152	285	190	170
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

## 中項目 3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化

事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外からの研究者の招聘 29名</li> <li>海外への研究員の派遣 13名 うち、国際会議への派遣 3名</li> <li>国際シンポジウム「法華の人と文化—その行動と思想—」(11/14)を開催</li> <li>文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「中国近代絵画に関わる国際研究交流」を推進。ワークショップ「中国近代絵画研究者国際交流集会」を開催した(12/16-17)</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際シンポジウム「法華の人と文化—その行動と思想—」(11/14) フランス国立高等研究院 宗教学部ジャン-ノエル・アレキサンドル・ロベール教授 プリンストン大学 宗教学部ジャクリーン・I・ストーン教授の2名を迎え、国内外の研究者3名が研究発表を行い、パネル・ディスカッションでは活発な討論がなされた。288人が参加し、熱心に聞き入っていた。</li> <li>特別展覧会「シルクロード 文字を辿って—ロシア探検隊収集の文物—」 ロシア科学アカデミー東洋写本研究 イリナ・ポポヴァ所長 ほか3名 を作品随伴、展示立会い、開会式出席、土曜講座講師として招へいた。</li> <li>文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業 「中国近代絵画に関わる国際研究交流」 ワークショップ「中国近代絵画研究者国際交流集会」(12/16-17) オハイオ州立大学 ジュリア・アンドリュース教授 台北故宮博物院前書画処長 王耀庭氏 ほか13名を招へいし、発表者18人を含む合計54人の参加者を得て、日本における中国近代絵画研究の意義などについて活発な意見交換がなされた。 当日の成果は論文集として3月に刊行した。 その事前調査として、当館の中国近代絵画コレクション調査に8名を招へいた。</li> <li>研究員を展覧会作品調査、科研費調査、文化庁海外展協力及び国際会議出席などで派遣した。 ロシア連邦2名、中国4名、インドネシア1名、英国1名、台湾1名、アメリカ1名、韓国1名、ベトナム1名、イタリア1名</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	海外からの研究者招聘	29人	5人程度	S		9	7	9	29
	海外への研究員の派遣	13人	6人程度	S		15	21	18	13
	国際シンポジウム参加人数	288人	—	—		152	285	190	288
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



中国近代絵画研究者国際交流集会

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流協定を結んでいる4館のうち3館との間で研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。内訳は中国・上海博物館（館員3名を6日間）、中国・河南博物院（研究員2名を1ヶ月間）、韓国国立慶州博物館（研究員1名を各1ヶ月間）である。</li> <li>・正倉院展開催に際し、韓国国立慶州博物館から館長ほか1名を招聘、正倉院宝物の保存管理や日韓両国の文化財行政等について意見交換を行った。</li> <li>・特別展「聖地寧波」における海外からの文化財借用に際し、外国人研究者（米国4名、中国6名、韓国4名）をクーリエとして、また中国・浙江省の文化財関係者4名を代表団として受け入れ、同展出陳作品及び文化財の管理・展示等に関する情報交換を活発に行った。</li> <li>・特別展「聖地寧波」会期中の8月8日・9日に実施した国際学術シンポジウム「舎利と羅漢－聖地寧波をめぐる美術」では、外国人研究者4名（米国・中国・台湾）が司会・研究発表を担当した。</li> <li>・特別展「聖地寧波」の事前調査のために中国・浙江省に4名の研究員を派遣し、開催に際してはクーリエとして4名の研究員を中国・韓国に派遣した。併せて今後の両国における文化財調査に向けた情報収集を行った。</li> <li>・特別展「第61回正倉院展」では正倉院宝物の源流をシルクロードに探る取材のため研究員を派遣し、パネル展示や連載記事に協力した。</li> <li>・22年度の特別展「平城遷都1300年記念 大遣唐使展」開催の事前調査のため中国にのべ2名の研究員を派遣し、中国で制作された関連作品を主たる対象とした事前調査・資料収集を行った。</li> </ul>								
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 国際交流協定を結ぶ4館との間の交流では、将来の共同調査や展覧会開催に向けた実りある調査・情報交換を行うことができた。</li> <li>② 特別展「聖地寧波」に際してはクーリエ・代表団との間で実りある交流を行うことができ、国内外から多数の研究者が参加した国際学術シンポジウムでも、同展開催に際して蓄積した研究成果を、世界に向けて発信することができた。</li> <li>③ 当館からの研究員派遣では、派遣先で文化財調査を行うことによって、仏教美術に関する当館の調査研究・展示活動を広くアジアの視野に立って展開する上で、貴重な情報の収集を行うことができた。</li> <li>④ 21年度の海外の研究者招聘人数が増加しているのは、招聘理由がその他の招聘の場合も含めて実績とすることとしたため。</li> </ol>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	海外の研究者招聘	29人	6人程度	S		10	9	9	29
	職員の海外への派遣	30人	6人程度	S		16	6	6	30
	国際シンポジウム開催	1回	—	—		—	—	—	1
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						

中項目		3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与										
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施											
担当者	担当部課	総務課 交流課	事業責任者	総務課長 樋口理央 主任主事 久保田資子								
実績・成果	<p>①海外研究者の招聘 (37人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JICA 草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」研修生受け入れ</li> <li>ベトナム文化講演会による招聘</li> <li>平成21年度 文化庁 アジア諸国博物館・美術館研究協力事業による招聘</li> <li>平成21年度 九州国立博物館文化財保存国際交流セミナーへの招聘</li> <li>国際シンポジウムによる韓国研究者の招聘</li> </ul> <p>②海外への研究者派遣 (60人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム民族博物館での中秋節イベントへの協力</li> </ul> <p>③国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流 一祈りのかたち 日本と韓国」開催</p>											
補足事項	<p>①JICA 草の根技術協力事業</p> <p>平成19年度から3ヶ年、独立行政法人国際協力機構と協力して、タイ王国を対象に「文化財の保存と地域の活性化」を実施。本事業では、博物館を中心に「文化遺産をいかに保存・活用」して、それを「どのように地域社会に還元していくのか」に焦点をおいた専門家派遣とタイ王国からの研修生受入を行った。本事業で培った人的交流を礎に、2011年にタイ・バンコク国立博物館で文化庁海外展を開催する予定であり、JICA 草の根技術協力事業も更に1年間、専門家派遣事業として継続する予定である。</p> <p>②ベトナム民族博物館における中秋節イベントへの協力</p> <p>九州国立博物館では、ベトナム民族博物館からの依頼を受けて、同館で開催された中秋節のイベントに協力した。本件は、研究員が当館収蔵品の修理のため、ベトナムの伝統紙を調査したことがきっかけで、ベトナム民族博物館からイベントへの協力要請があったものである。</p> <p>ベトナムの中秋節は子どものためのイベントであることから、「紙」と「日本のあそび」をテーマにしたワークショップを実施。3日間でベトナムの子供たちをはじめ、20,000人以上が参加した。</p> <p>③トピック展「巨大掛軸をめぐる文化交流 祈りと暮らしのかたち」に関連して、韓国及び国内から仏教絵画の専門家及び絵画の修理経験が豊富な技術者を招き、「巨大な仏画」をテーマにしたシンポジウムを開催した。また、シンポジウムの開催に合わせて友好館である韓国国立公州博物館ほか、トピック展の協力者である韓国国立古宮博物館、京畿道博物館から研究員を招聘し、研究交流を図った。</p>			 <p>研修の様子</p>			 <p>手漉き和紙のワークショップの様子</p>			 <p>国際シンポジウムの様子</p>		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21			
	海外研究者招聘	37人	3人	S		17	38	18	37			
	海外への派遣	60人	4人	S		32	44	35	60			
	国際シンポジウム 回数	1回	—	—		3	4	1	1			
	国際シンポジウム参加者	300人	—	—		640	586	385	300			
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)											
中期計画 記載事項	海外の優れた研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催するなど、博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調									

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施								
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸					
実績・成果	<p>1. 特定非営利活動法人文化財保存支援機構が主催する専門家セミナーに東京国立博物館が共催し、東京国立博物館を会場として「第1回文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルI（後期）」（平成21年8月3日（月）～14日（金）の10日間）、及び「第2回文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルI（前期）」（平成21年8月31日（月）～9月11日（金）の10日間）を開催した。東京国立博物館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場としての修理施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容としては、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。</p> <p>2. 平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業により「古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流」を12月15日～20日に実施し、国内外の専門家による作品調査会、専門家によるワークショップ及び一般参加者も含めた国際シンポジウムを開催し、古代染織品についての保存に関して理解を深めた。</p> <p>3. 文化財保存修復学会との共催により、公開シンポジウム「文化財をまもるー文化財のまもり手を育てるー（文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表（B）」）を開催した。</p> <p>4. 文化財保存修復学会との共催により、特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」展にちなみ修理技術者を対象にした研修会を3月20日（土）に開催。「十六羅漢図」の修理事例及び「国宝阿修羅」の輸送事例の発表、特集陳列の解説を実施した。</p> <p>5. 大学院生のインターンを平成22年2月8日（月）～19日（金）間での間、2名受け入れた。</p>								
補足事項	<p>1. セミナーカリキュラムは5テーマに沿って2年間で120時間分を履修する。①「保存修復事業における調査診断法」、②「環境保全概論」、③基礎修理設計、④基礎材料論、⑤特講。後期参加者は22名、前期参加者は29名であった。</p> <p>2. 招聘研究者は以下の通りである。中国絲綢博物館（1名）、メトロポリタン美術館（3名）、ベルギー王立文化財研究所（元所属者1名）、サウザンプトン大学（元所属者1名）、アベック財団（1名）、大英博物館（1名）、宮内庁正倉院事務所（3名）、女子美大学美術館（1名）。調査会参加者は18名、ワークショップ参加者は30名、シンポジウム参加者は217名であった。</p> <p>3. 「文化財をまもるー文化財のまもり手を育てる」参加者は専門家および一般を合わせ259名であった。</p> <p>4. 大学院生インターンは東北芸術工科大学芸術文化専攻保存修復領域修士2年1名、京都造形芸術大学芸術研究科芸術文化研究選考修士1年1名であった。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価					
	研修会開催 インターン受入れ	4回 2人	— —	— —	経年 変化	18 —	19 —	20 1 3	21 4 2
年度実績 評価総括	S <b>(A)</b> B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						



「古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流」の一環として実施した12月19日開催のワークショップ風景

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化								
事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 村上 隆					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。</li> <li>当館にて開催の特別展覧会において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。 参加者 「妙心寺」展 52人 「シルクロード文字を辿って」展 39人 「日蓮と法華の名宝」展 39人 「THE ハプスブルク」展 25人</li> <li>文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。 参加大学院生：3名</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで双方の見識にプラスとなった。</li> <li>文化財修復に関わる大学院生をインターンとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	研修会開催 実習生受け入れ	4回 3名	— —	— —			3 1	3 —	4 3
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



中項目 3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施			
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	博物館科学課長 本田光子 特任研究員 村田忠繁 環境保全室長 今津節生 保存修復室長 藤田励夫 研究員 志賀智史

実績・成果	①紙文化財保存基礎講座 a 文化財保存修復研修（地元大学の文化財保存技術専攻学生7名対象）8月17～21日 b 古文書保存基礎講座（地元博物館文化財関係者17名対象）1月20日、27日 ②文化財保存交流セミナー a 「漆工品の保存修復」 7月14日 参加者61名 b 「IPM・もっと知りたいシリーズ 甲虫の話」 22年2月28日（日） ③文化財保存国際交流セミナー a 「海外招聘事業 韓国の装こう修理」12月22日 参加者16名 b 「海外招聘事業 ベトナムの手漉き紙」22年2月5日 参加者18名 c 「中国古代青銅器の鑄造技術を探る」22年2月27日 ④ミュージアム支援者育成事業（文化庁受託事業） 「市民と共にミュージアム IPM」 研修会4回、ワークショップ4回、施設見学4回、シンポジウム1回 登録者50名			
-------	--	--	--	--

補足事項	     			
------	---	--	--	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21
	研修会等開催回数	20回	19回	A	経年変化		11	10

年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由) A
--------------	---------------------------

中期計画 記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
--------------	---

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調
-----------------------	----

中項目		3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与							
事業名	(4) 公私立博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長	谷	豊信			
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。</li> <li>考古資料相互貸借事業は、二つの博物館と協力して実施した。</li> <li>平成 17 年度に始まった長崎歴史文化博物館に対するキリシタン関係遺物約 80 件の長期貸与は本年度も継続して実施中である。同館への貸与品と、九州国立博物館への長期管理換品、そして当館での展示品とがそれぞれ一定の質を保つよう、調整している。</li> <li>イタリア共和国ミラノ市のパラッツォレアーレで開催された「日本・その力と輝き 1568-1868」に、「特別協力」の立場で参加し、展覧会開催に貢献した。</li> <li>韓国国立中央博物館の平常展示のため、平成 22 年 2 月に東南アジアの彫刻 5 件を貸与した。貸与期間は 2 年間の予定である。</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸与に当たっては、先方の施設および責任体制の確認、作品の保存状況の確認、先方の事前調査への対応、作品が輸送・展示に耐えるかの判定、希望が重複した場合の調整、引渡し時および返却時の状況確認を行っている。</li> <li>法人の考古資料相互貸借事業経費により、茨城県立歴史館には 16 件を貸与し 14 件を借用、埼玉県立さきたま史跡の博物館には 11 件を貸与し、16 件を借用した。借用品により、当館では特集陳列「古代・中世の茨城一経塚・板碑・和鏡」、特集陳列「茨城の弥生再葬墓」特集陳列「埼玉県寿能泥炭層遺跡出土の木製品と漆製品」を開催した。</li> <li>パラッツォレアーレ日本展に対しては、当館は共催者でないが、特別協力の立場から異例の協力を行った。全展示品が日本からの出品(214 件、うち国宝 1、重文 14 件)であり、作品の集荷、通関、輸送、展示、展示替、撤収の実務を日本側(大阪市立美術館、当館ほか)が担当した。展覧会開催のため、当館は展示・展示替、撤収の作業に延べ 8 名の職員を派遣するなど、多大な努力を行った。</li> <li>平成 18 年度以降、貸与先件数・貸与件数とも連続して減少している。地方自治体等の財政難による展覧会規模の縮小が背景にあるものと思われる。</li> </ul>								
						上：特集陳列「茨城の弥生再葬墓」 下：「日本・その力と輝き 1568-1868」(イタリア・ミラノ市)			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21
	貸与件数	888 件	—	—	経 年 変 化	1,471	1,302	1,125	888
	うち国内の貸与件数	778 件	1,000 件	B		1,329	1,118	1,012	778
	うち海外の貸与件数	110 件	50 件	S		142	184	113	110
	貸与先施設数	120 件	—			146	149	135	120
年度実績 評価総括	S A ② C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館に対し、展示等の充実に寄与するための貸与を促進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化								
事業名	(4) 公私立博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長	若杉準治				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>68機関に対し428件の収蔵品貸与を行った。(うち海外2機関に対し28件)        館蔵品の貸与件数：201件        寄託品の貸与件数：227件        計 428件</li> <li>ウェブページでの「貸出作品リスト」の公開</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>ギャラリー建替中は作品貸出を停止する博物館・美術館が多い中で、当館は、公私立博物館・美術館からの要請を受け、積極的に収蔵品の貸与を行い、各博物館、美術館の展示の充実に寄与した。</li> <li>ウェブページで、上記の貸与作品についての全リストを、貸与館・展覧会ごとに公開して、「京博の収蔵品がいまどこへいけば鑑賞できるか」の情報をリアルタイムで提供した。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	貸与件数 うち海外への貸与件数	428件 28件	約120件 -	S -		232 8	171 3	246 1	428 28
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(4) 公私立博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	学芸部列品室	事業責任者	列品室長 岩田茂樹					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>館藏品と寄託品の貸出は、展覧会にして34件、作品件数にして108件。            [貸与先内訳] (のべ)            国立3館、公立23館、私立6館、その他2館</li> <li>[貸与作品内訳]            国宝7件、重要文化財42件、その他59件            館藏品54件(絵画15件、彫刻3件、書跡5件、金工5件、考古26件)            寄託品54件(絵画32件、彫刻12件、書跡4件、金工1件、漆工1件、考古4件)</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値をクリアしており、順調に推移している。</li> <li>単に数的目標に到達することを第一義とするだけではなく、展覧会の意義と作品の保存状態を慎重に検討しつつ貸出を行っている。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	貸出件数	108件	100件	A		161	137	163	108
	うち海外への貸与件数	1件	—	—	36	3	2	1	
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収藏品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収藏品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。									順調

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(4) 公私立博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	研究員	原田あゆみ				
実績・成果	国内 14 機関・海外 1 機関に所蔵品および借用品を貸与した。								
補足事項	<p>○国内機関への貸与については、文化庁・奈良国立博物館・国立歴史民俗博物館のほか、九州・沖縄管内外の公私立博物館・美術館（長崎歴史文化博物館・九州歴史資料館・宮崎県立西都原考古博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館・下関市立考古博物館・花巻市博物館・奄美市立奄美博物館・伊達市噴火湾文化研究所・名古屋市博物館・サントリー美術館・茶道資料館など）からの出品要請に協力し、国宝 1 件・重要文化財 22 件を含む所蔵品・借用品を貸与した。</p> <p>○海外機関への貸与については、メトロポリタン美術館特別展「朝鮮王朝前期の韓国美術 1400 年～1600 年」への出品要請に協力し、所蔵品を貸与した。</p> <p>○福岡県立アジア文化交流センター所蔵作品の貸与件数も遡って加え、また会議承認年度ではなく実際の貸与時期に対する統計としたため、従来の数字と異なっている。</p>								
	重要文化財 油滴天目茶碗(当館保管) 茶道資料館秋季特別展「わび茶の誕生 一珠光から利休まで」出品								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	貸与件数	72 件	-	-		173	104	105	72
	うち海外への貸与件数	1 件	-	-		1	31	30	1
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品については、作品それぞれの状態を勘案しつつ、国公立の博物館・美術館に対し、展示などを充実させるため貸与を推進する。情報を公開するなどして、貸与に関する具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	学芸研究部	事業責任者	学芸研究部長 島谷 弘幸					
実績・成果	文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力（78件） 文化財の展示にかかる指導助言（12件） 講演会やセミナー等における講演等での協力（37件） 作品の展示・保存環境についての調査・指導（12件）								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内・海外の博物館・美術館からの要望に応じ、展覧会での展示方法や作品調査にかかる指導・助言を行い、また講演会等における発表や講師での協力をした。</li> <li>・これにより各機関の展示企画を充実させ、調査研究活動に貢献するとともに、日本文化の紹介を通じて国際交流の発展にも寄与した。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	公私立博物館・美術館への援助・助言	139件	40件	S		56	124	134	139
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化								
事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康					
実績・成果	文化財の展示、修理にかかる指導助言（18件） 文化財の調査にかかる指導助言（31件） 講演会、セミナー等における講演等での協力（17件） 地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力（48件）								
補足事項	<p>文化財の展示、修理にかかる指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富山県水墨美術館「日本の美 国宝との出会い」展への特別協力 展示・展示替え・撤去等の指導を行った</li> <li>・岡山県立博物館「建仁寺」展 展示・撤去の指導</li> <li>・国立新美術館「THE ハプスブルク」展 展示・撤去の指導</li> <li>・石見银山資料館 展示・調査の指導</li> <li>・文化庁・メトロポリタン美術館「The Art of Samurai」展 撤去の協力</li> <li>・宮内庁 皇室美術工芸品の修理指導 他</li> </ul> <p>文化財の調査にかかる指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成城大学 金剛寺蔵の聖教調査</li> <li>・沖縄県教育委員会 沖縄のガラス・玉等製品関係調査</li> <li>・徳川美術館 染織作品調査 他</li> </ul> <p>講演会、セミナー等における講演等での協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁 指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師</li> <li>・山梨県立博物館 「金・銀・銅サミット in 甲州」講師</li> <li>・北海道大学大学院大学 国際ワークショップ講師 他</li> </ul> <p>地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀県文化財保護審議会</li> <li>・越前市文化財保護委員会</li> <li>・伊丹市文化財保護委員会</li> <li>・天橋立世界遺産登録可能性検討委員会学識者ワーキング</li> <li>・愛知県史編さん委員会文化財部会 他</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	公私立博物館・美術館 への援助・助言	114件	12件	S		36	81	114	114
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長	稲本泰生				
実績・成果	<p>・「石山寺の美 観音・紫式部・源氏物語」(富山会場＝富山県水墨美術館、21年4月4日～5月17日、石山寺・本展実行委員会主催。浜松会場＝浜松市美術館、同7月18日～8月23日、同館・静岡新聞社・静岡放送・石山寺主催。北九州会場＝北九州市立美術館、同9月12日～10月18日、同館・石山寺・毎日新聞社主催)において学術協力を行い、出陳作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言ならびに補助、目録の編集協力等を行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。</p> <p>・「信貴山秘宝展」(名鉄百貨店本店、10月8日～13日)において学術協力を行い、集荷・陳列・撤収・返却の指導及び作品解説執筆などを行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。</p>								
補足事項	<p>・「石山寺展」「信貴山秘宝展」への学術協力を通して、関西地区所在の仏教関連文化財の他地域における紹介・普及に、多大な貢献を果たすことができた。また特別展等、将来の当館の事業に対して協力を得る際に不可欠である石山寺及び信貴山朝護孫寺との信頼関係を、より強固なものとすることができた。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	公私立博物館・美術館への援助・助言	25件	5件	S		7	5	5	25
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	樋口理央				
実績・成果	公私立博物館等で開催された研究集会および講演会において指導・助言を行った。								
補足事項	<p>当館研究員が指導・助言を行った主なものとしては、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 館内施設の保存環境整備および環境調査についての助言・指導（新九州歴史資料館）</li> <li>・ 博物館資料の保存管理についての講演（宮崎県総合博物館内宮崎県博物館等協議会）</li> <li>・ 考古学、博物館学と保護に関する国際セミナーにおける講演（タイ バンコク国立博物館）</li> </ul>								
	館長の講演風景								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	公私立博物館・美術館等への援助・助言件数	39件	12件	S		57	38	47	39
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

